



#差別ネタ

西尾市立平坂中学校3年 鈴木 花音

「ふうー、疲れたから休憩しよ。」

宿題を終えた私は、スマホを手に取り、ある動画アプリを開いた。スワイプして、次々に流れてくる動画を見ていると、一つの動画に目が止まった。軽快な音楽と共に流れてきたのは、それに似合わないものだった。

私は最初、理解することができなかった。書かれていた数行の文を何度も読み返して、ようやく、謎かけにダウン症を当てはめて作ったのだと分かった。ダウン症はおろした方がいい、という内容だった。いわゆる差別ネタ。まず一番に、怒りが込み上げてきて、次に悲しみや疑問が生まれた。私の妹は、このネタにされたダウン症なのだ。意図して、自分の妹に向けたものではないと分かってはいるけれど、とてつもなく腹が立った。悪ふざけや遊びで言われているという事実が辛かった。妹はあんなに頑張っているのに、どうして他人にそこまで言われなければならないのか。私は、妹が生まれてきてくれて良かったと思っているのに、どうして「かわいそう」と思われるのか、そんなことばかりが頭に浮かんできて、コメント欄も私みたいな考えなのだろうかと思い、開いてみる。すると、

「自分が親ならおろすかも。」

「ダウン症の子を産んで誰が幸せになる？」

などと、動画に対して肯定的な意見の方が多くあり、とても驚いた。

最近では医療の発達により、出生前診断というもので、生まれる前にダウン症かどうか分かるそうだ。私の妹が生まれたときは出生後に分かったのだが、母は、

「出生前に分かっていたとしても、産んでいたよ。」

と言った。ひとつの命で、自分の子だからと。これを聞いたときに、私は母の強い意志を感じた。それと同時に、私が母の立場でも同じ選択をしたらどうなるかと思った。そうでなければ、妹と母に合わず顔がない。

コメントを引き続き見ていると、「優生思想」という言葉が目に入った。何だろうと思い、調べてみると、

「社会にとって有用な人間を増やし、劣った人間は排除すべきだ、という考え。」

だと書いてあった。別のサイトも見てみると、あることに繋がった。出生前診断である。出生前診断は、「命の選別」を行う優生思想を助長しかねないという観点から批判されているようだ。だがしかし、

「健常児を産んで、幸せになりたい。」

という思いを持つ人からしたら、ありがたいことなのだ。だから、優生思想という考えは、差別とは関わりが深いものの、脈々と社会に根付いているのが現状だ。

様々な意見や考えを見て、冷静にもう一度考えてみると、確かに、ダウン症の子を産むというのは、他よりもリスクが高いと思う。それは、身をもって感じている。不安に思うのも当然だ。ダウン症に対して偏見を持っていたり、よく知らない人からしたら、尚更だ。全員が全員、同じ意見や考えではないし、違っていてもいいと思う。結局、判断するのはその人自身だし、他人が口出しすることではないからだ。私の周りには、幸せなことに、妹のことで何かを言うてくる人は居ないし、むしろ受け入れてもらえている。だから、気づかなかった。ただ、私が恵まれているだけで、世の中にはそういった差別的なことをしている人がいることを。もしかしたら、頭や心の中のことか他人事だと思っていたのかもしれない。私は凄く反省した。

しかし、やはりやって良いことと悪いことがあると、私はこの件を通して改めて実感した。本人や拡散した人たちが、どういった意図や気持ちで書いたり、動画にしたのかは定かではないが、善意でしたことではないというのは分かる。本人たちからしたら、ほんの些細なことでも、傷つく人や不快に思う人がいるということをちゃんと知ってほしい。

今の時代、インターネットで誰もが簡単に情報を発信できてしまう。それは、とても便利なことばかりだが、同じくらい、いやそれ以上に問題も発生している。お互いが、相手の立場に立ち、意見を尊重し合える社会になれば、解決することかもしれない。だがそれは、簡単なようでとても難しいことだ。だからまず、相手を知ることが大切だと私は思う。知らないから偏見を持ち、差別に繋がってしまう。命に優劣など無いのだから。その人の見た目や一部で判断せず、自分の言葉に責任を持ち、これからも過ごしていきたいと思う。